

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館制度・経営論						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバー	T22420
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における政策と経営の考え方及びあり方の理解						
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、行政制度及び具体的な行政サービスを遂行するための図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源としての人材・経費・資料等の活用計画について説明を行い、図書館の組織、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理・運営形態及び専門職員の在り方等について解説する。						
到達目標	(1) 図書館に関する社会科学的事項を学ぶことにより、公共図書館等の図書館の経営の理念とその現状を理解し説明できる。 (2) 行政制度及び具体的な行政サービスに関する知識を習得し説明できる。 (3) 図書館の本質を具体的に見定め、利用者の立場を含めた総合的な視点を習得し説明でき実践できる。						
授業計画	第1回 図書館をめぐる法体系 第2回 図書館法逐条解説(1) 総則 第3回 図書館法逐条解説(2) 公立図書館および私立図書館 第4回 地方自治体の図書館関連条例など 第5回 他館種の図書館に関する法律など 第6回 図書館サービス関連法規 第7回 図書館政策(国、地方自治体) 第8回 公共機関・施設の経営方法と図書館経営 第9回 図書館の組織・職員(1) 教育委員会・組織構成・図書館長の役割・人事管理 第10回 図書館の組織・職員(2) 図書館協議会・図書館を支える住民団体・図書館ボランティア 第11回 図書館の施設・設備 第12回 図書館のサービス計画と予算の確保 第13回 図書館業務/サービスの調査と評価 第14回 図書館の管理形態の多様化 第15回 展望及びまとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。(120分) 授業後学習：授業中に説明した内容について図書館等(本学図書館、公共図書館等)で確認してください。(120分)						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験(60%)、レポート(40%)						
履修上の注意	教科書の内容を中心に授業を進めます。						
教科書	『図書館制度・経営論 第2版』(ベーシック司書講座：図書館の基礎と展望：5) 手嶋孝典編著 学文社 ISBN 978-4-7620-2701-7						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館制度・経営論						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバー	T22420
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における政策と経営の考え方及びあり方の理解						
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、行政制度及び具体的な行政サービスを遂行するための図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源としての人材・経費・資料等の活用計画について説明を行い、図書館の組織、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理・運営形態及び専門職員の在り方等について解説する。						
到達目標	(1) 図書館に関する社会科学的事項を学ぶことにより、公共図書館等の図書館の経営の理念とその現状を理解し説明できる。 (2) 行政制度及び具体的な行政サービスに関する知識を習得し説明できる。 (3) 図書館の本質を具体的に見定め、利用者の立場を含めた総合的な視点を習得し説明でき実践できる。						
授業計画	第1回 図書館をめぐる法体系 第2回 図書館法逐条解説(1) 総則 第3回 図書館法逐条解説(2) 公立図書館および私立図書館 第4回 地方自治体の図書館関連条例など 第5回 他館種の図書館に関する法律など 第6回 図書館サービス関連法規 第7回 図書館政策(国、地方自治体) 第8回 公共機関・施設の経営方法と図書館経営 第9回 図書館の組織・職員(1) 教育委員会・組織構成・図書館長の役割・人事管理 第10回 図書館の組織・職員(2) 図書館協議会・図書館を支える住民団体・図書館ボランティア 第11回 図書館の施設・設備 第12回 図書館のサービス計画と予算の確保 第13回 図書館業務/サービスの調査と評価 第14回 図書館の管理形態の多様化 第15回 展望及びまとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: 授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。(120分) 授業後学習: 授業中に説明した内容について図書館等(本学図書館、公共図書館等)で確認してください。(120分)						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験(60%)、レポート(40%)						
履修上の注意	教科書の内容を中心に授業を進めます。						
教科書	『図書館制度・経営論 第2版』(ベーシック司書講座: 図書館の基礎と展望: 5) 手嶋孝典編著 学文社 ISBN 978-4-7620-2701-7						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	学校図書館概論						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	T21610
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学校図書館の理念、教育的意義やその活動、学校司書の職務などの学校図書館に関する基本的事項について学ぶ。						
授業の概要	学校図書館についてその意義、機能、活動等について総合的に学習することを通じて学校図書館の基礎的なことがらについて解説する。また、学校教育との関連や教育法制、教育行政との関連について概要を解説する。そのようなことを踏まえて、教諭や学校図書館で働く学校司書、司書教諭等の協働について事例紹介を通じて解説するとともに、これからの学校図書館が担うべきことを考える手がかりとなるように講義を行う。については、講義内容に関連して受講生の学校図書館の利用体験や意見などの発言を求める。						
到達目標	1 学校図書館とはどのようなものであり、どのような理念で設置されているかを理解する。 2 現代の学校図書館がどのようにして、展開、発展してきたかを理解する。 3 学校教育の中で学校図書館がどのような役割を果たしているかを理解する。 4 学校司書としてどのような役割を果たすべきかを理解する。						
授業計画	1) ガイダンス、学校図書館とは、学校図書館の理念 2) 学校における学校図書館の意義、役割 3) 法制度と学校図書館 4) 教育行政と学校図書館 5) 日本における学校図書館の歴史 6) 学校図書館の経営 7) 学校図書館のスタッフ(学校司書、司書教諭、ボランティア) 8) 学校図書館の施設・設備 9) 学校図書館におけるメディアの選択と収集、保存、提供 10) 学校図書館の様々な活動 11) 学校司書の職務と教職員との協働、研修 12) 学校図書館、図書館の相互協力とネットワーク 13) 学校図書館と図書館の自由 14) 学校図書館の現状、課題と展望 15) まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	学校司書課程で学習する内容の基礎となる科目ため、事前学習より、事後学習(復習)をしっかりと行うように心がけること。 授業前学習として、事前に配布する教材、資料を読み、要点を把握すること(120分) 事後学習として、授業で学んだ内容を復習すること(120分)						
授業方法	講義形式、ただし随時みなさんの図書館についての印象や意見を口頭なり、ミニレポートとして求めます。						
評価基準と評価方法	授業への参画態度とミニレポート(20点)、定期試験(80点)によって評価します。						
履修上の注意	学校司書養成課程を受講する学生は、この科目から履修を始めることが望ましい。 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、欠席はしないように心がけること。						
教科書	教科書は使用しない。教材はプリントを配布します。						
参考書	全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携』改訂版 悠光堂、2017年 金沢みどり著『学校司書の役割と活動 ー学校図書館活性化の視点から』学文社、2017年 坂田仰、河内祥子編著『学校図書館への招待』 八千代出版、2017年						

科目区分	司書課程科目						
科目名	学校図書館サービス論						
担当教員	村上 幸二					科目ナンバー	T21620
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学校図書館サービスの実施に向けた基礎的実践力の習得						
授業の概要	学校図書館における児童生徒及び教職員へのサービスの考え方や各種サービス活動についての理解を図ることを目的とする。						
到達目標	(1)学校図書館サービスの特徴や方法の要点をあげることができる。 (2)学校図書館サービスの基本的な計画と実施について説明できる。 (3)学校教育との関連で学校図書館サービスを考えることができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス、学校図書館サービスの考え方と構造 第2回 学校図書館サービスの環境整備 第3回 学校図書館サービスの運営 第4回 学校図書館の利用ガイダンス 第5回 学校図書館の資料・情報提供 第6回 児童生徒への読書支援（図書館行事、図書リスト、読書推進活動、読書相談） 第7回 児童生徒への学習支援①（教科等の指導に関する支援） 第8回 児童生徒への学習支援②（特別活動の指導に関する支援） 第9回 児童生徒への学習支援③（情報活用能力の育成に関する支援） 第10回 特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援 第11回 教職員への支援①（資料相談、情報提供） 第12回 教職員への支援②（教材準備に関する支援、チームティーチング） 第13回 学校図書館の広報・渉外活動①（学校図書館だより、ホームページの活用） 第14回 学校図書館の広報・渉外活動②（学校行事等との連携） 第15回 これからの学校図書館サービス、まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：前時の授業で指示した該当箇所の予習など（学習時間：120分） 授業後学習：授業で学習した内容の確認など（学習時間：120分）						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点 20%：授業での発表・発言・意欲・関心を総合的に評価する。 課題 30%：理解の到達度と創造的な取り組みを重視する。 試験 50%：学校図書館サービスの基礎的知識と基本的な実践力を評価する。 課題・試験はそれぞれ評価後、各自に講評をフィードバックする。						
履修上の注意	1. 授業で学習した内容について知識だけでなく、実際に図書館等に行って確認することが望ましい（具体的な方法については授業で指示する）。 2. 日頃から絵本や児童書に触れる機会をできるだけ多く持つこと。 3. 授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	別途指示する。						
参考書	『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携：理論と実践』悠光堂、ISBN:978-4-906873-50-0						

科目区分	司書課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸来 知子					科目ナンバー	T21990
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	人が学校を卒業してからも、生涯に亘って学び続けることの意義や必要性を理解すること。 現代社会にどのような学びの場があるのかを知り、また学習を保障する法律や法規を知ること。						
授業の概要	キーワード：生涯学習社会の理念と実情の理解 生涯学習という概念は、1960年代の中頃から新しい教育理念として出てきた。今日では、生涯学習社会を構築するために、学校教育にとどまらず、社会教育の役割も重要になっている。生涯学習論では、教育の原理、および生涯学習の意義を把握し、人間のライフサイクルと共に変化する学びの必要性を学習する。また、社会教育施設や、教育に関する地方自治体の行財政や法律についても学ぶ。						
到達目標	生涯学習の目標を具体的に述べることができる。 生涯学習社会の歴史的経緯を説明できる。 現代の生涯学習や社会教育の場を列挙することができる。 アンドラゴジーとリンデマンの生涯学習理論を理解する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 生涯学習の歴史的側面・理念・目標について 第2回 学校教育と生涯学習の関連性及び生涯学習の現状を知る 第3回 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 第4回 日本と外国の生涯学習に対する取り組みの比較考察 第5回 人間の成長と発達の理論（様々なライフサイクル論・乳児期から青年期） 第6回 人間の成長と発達の理論（エリクソンのライフサイクルの青年期・成人期・老年期） 第7回 子供の学習と成人の学習の違いについて 第8回 成人期の学習の特徴と学ぶことの意義について（アンドラゴジー理論の紹介） 第9回 成人期の学習の特徴と学ぶことの意義について（リンデマンの生涯学習論の紹介） 第10回 老年期に学ぶことの意義と実情について 第11回 死への準備教育（デス・エデュケーションの紹介） 第12回 社会教育施設および生涯学習施設の紹介及びその管理と運営について 第13回 学習者への支援と評価の在り方・学習成果の活用について 第14回 生涯学習および社会教育に関する振興施策と推進の事例について 第15回 生涯学習および社会教育に関する教育法規について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：教科書の次の授業で取り扱う箇所を事前に読んでおくこと。理解できないところや疑問点をピックアップしておくこと。（学習時間 90分） 授業後学習：教科書を再読し、ノートを整理すること。配布した資料を読んでおくこと。（学習時間 90分）						
授業方法	講義。グループディスカッションを数回予定している。						
評価基準と評価方法	試験70%、小レポート10% 各回提出のリアクションペーパー（授業のコメント、感想、提案など）による平常点、20%						
履修上の注意	司書資格・学芸員資格に必修です。 毎回出席を取ります。						
教科書	『生涯発達と生涯学習』 堀薫夫著 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-05667-5						
参考書	『生涯学習論 - 現代社会と生涯学習』、岩永雅也著、放送大学大学院教材						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習A						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバー	T2247A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インターネット情報資源の情報検索サービスの実際と演習						
授業の概要	情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス及び情報検索サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービスを通しての回答を行い、積極的なコラボレーション型情報サービスの演習を通して、総合的かつ、実践的な能力を養成する。						
到達目標	(1) インターネットを通じた情報検索サービスを行うことができる。 (2) レファレンスサービスカウンターでのコンシェルジュ（総合案内係）としての情報検索端末を操作できる。 (3) インターネット情報資源によるレファレンスサービスを演習し、レファレンスサービスを行うことができる。						
授業計画	第1回 情報サービスの設計（レファレンスサービスの体制作りを含む） 第2回 情報サービスの方法・プロセス（レファレンスインタビューとレファレンスプロセス等） 第3回 情報検索サービスの技法と実際（論理演算、トランケーション、キーワード、シソーラス、マッピング、検索評価等） 第4回 情報資源の探し方 第5回 Webページ、Webサイトの探し方 第6回 図書情報の探し方 第7回 雑誌の探し方 第8回 雑誌記事の探し方 第9回 新聞記事の探し方 第10回 言葉・事柄・統計の探し方 第11回 歴史・日時の探し方 第12回 地理・地名・地図の探し方 第13回 人物・企業・団体の探し方 第14回 法律・判例・特許の探し方 第15回 今後の情報サービス及びまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。（120分） 授業後学習：授業中にできなかった演習問題の回答を試みてください。（120分）						
授業方法	講義及びパソコン、インターネットによる演習問題の回答作成						
評価基準と評価方法	期末試験（50％）、授業での演習課題への取り組み及び発表（50％）						
履修上の注意	この演習の概説科目である「情報サービス論」を取得後でないとその科目は履修できない。教科書の内容及び演習問題を中心に授業を進めていきます。						
教科書	『情報サービス演習 改訂』（現代図書館情報学シリーズ；7） 原田智子編、樹村房、 ISBN978-4-88367-267-7						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習B						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	T2247B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報サービス演習Aのあとを受け、具体的なレファレンス質問の調査、回答の過程を通じて種々の図書館情報資源を用いるための基本的かつ実践的な知識、技能を養う。また、レファレンスサービス、情報検索サービスの記録の意義や評価について学ぶ。情報発信型の情報サービスについての基礎的な実践的知識を身に付ける。						
授業の概要	レファレンス質問に対する各種参考図書を使用しての回答の作成の演習を行う。情報サービスの評価方法、発信型情報サービスについて学ぶ。						
到達目標	図書館情報資源のなかで基本的かつ重要なレファレンスブックスについての知識と利用法を修得する。データベース、インターネット情報資源による調査と印刷媒体の参考図書による調査の特徴、差異を体得する。情報サービスの評価、情報発信型サービスの手法を理解し、実際にできるようになる。						
授業計画	1. 演習のガイダンス 参考図書の評価法 2. 参考図書の評価演習 3. レファレンス質問の調査 1) ことば、文字に関する問題 4. レファレンス質問の調査 2) 人名、人物に関する問題 5. レファレンス質問の調査 3) 歴史、日時に関する問題 6. レファレンス質問の調査 4) 図書、雑誌の書誌的事項、所蔵に関する問題 7. レファレンス質問の調査 5) 新聞記事に関する問題 8. レファレンス質問の調査 6) 雑誌記事に関する問題 9. レファレンス質問の調査 7) 法令、統計に関する問題 10. レファレンス質問の調査 8) 探索質問としての書誌作成 11. レファレンス質問の調査 9) 書誌作成の演習 12. 情報サービスの記録と評価 -レファレンスコレクションの評価、情報検索サービス・レファレンスサービスの評価 13. 発信型情報サービス 14. バスファンダーの作成、リサーチナビ 15. まとめ 前期の「情報サービス演習A」を引き継いで、レファレンス質問の調査、回答の演習を行う。また、クラスでの発表や受講生の演習への参画度合によって、演習の進捗が変更されます。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	受講にあたっての事前学習としては、情報サービス論で学習したレファレンスサービスやさまざまな情報サービスに関する内容を復習しておくこと。 演習にあたっては、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、図書館で調査をし課題を行うこと。（120分）						
授業方法	最初の2回を除きほぼ毎回課題が課せられる。その課題の調査結果を発表し、受講学生、担当教員で検討をする演習形式で進めていく。						
評価基準と評価方法	授業での課題の調査、発表等の授業への参画度(20%)と成績評価レポート(80%)によって評価する。						
履修上の注意	レファレンス質問の調査課題の回答のため、毎回100円程度の図書館等でのコピー代が必要となるので心づもりしておくこと。						
教科書	原田智子編『情報サービス演習』改訂版 樹村房、2016年刊 ISBN978-4-88367-267-7（情報サービス演習Aと同じ教科書を引き続き使用します）						
参考書	課題、回答例等は適宜プリントを配布します。 長澤雅男、石黒祐子共著「レファレンスブック 選び方・使い方」 日本図書館協会、2013						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス論						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバ－	T21460
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における各種情報サービスの総合的な概説						
授業の概要	情報サービスを行ううえでのレファレンスライブラリアンとして必要かつ基本的なレファレンスサービスと情報検索サービスに関わるサービス提供方法の融合化を目指し、従来の参考図書及び新しい情報源を理解し、あらゆる質問に総合的かつ、実践的に対応できる能力を育成する。又、各種新しい情報サービスの事例紹介を行い、情報サービス演習（レファレンスサービス演習及び情報検索サービス演習）の概説としての説明も行う。						
到達目標	(1) 図書館における情報サービスの意義を理解し、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法を実践できる。 (2) 参考図書（レファレンスブック）・各種データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等（パスファインダー・機関リポジトリ等）の新しいサービス等の実際を学ぶことで図書館における情報サービスを実践できる。						
授業計画	第1回 インターネット時代における情報社会と図書館の情報サービス 第2回 図書館における情報サービスの意義と種類(1)（レファレンスサービス、情報検索サービス等） 第3回 図書館における情報サービスの意義と種類(2)（レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス、読書相談、利用案内等） 第4回 レファレンスサービスの理論(1)（利用者の情報行動、レファレンスサービスプロセス等） 第5回 レファレンスサービスの理論(2)（事例の活用、組織と担当者、サービスの評価等） 第6回 レファレンスサービスの実際と方法(1)（レファレンスサービスの体制づくり等） 第7回 レファレンスサービスの実際と方法(2)（レファレンスサービスの実際、インタビューの方法、普及、現状と問題点等） 第8回 情報検索サービスの理論（利用者の情報行動、情報検索サービスプロセス、事例の活用、組織と担当者、サービスの評価等） 第9回 情報検索サービスの実際と方法（情報検索サービスの実際、インタビューの方法、普及、現状と問題点等） 第10回 各種情報源の解説と評価（参考図書、ネットワーク情報資源等を含む） 第11回 新しい情報源の特質と使用方法（電子ブック、電子ジャーナル、データベース、オープンソース等） 第12回 各種情報源の組織化（二次資料の作成及び参考文献の作成、情報発信を含む） 第13回 発信型情報サービス（パスファインダー）の意義及び実際と方法 第14回 発信型情報サービス（機関リポジトリ・オープンソース）の意義及び実際と方法 第15回 図書館利用教育の意義及び実際と方法（情報リテラシーの育成を含む）及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。(120分) 授業後学習：授業中に説明した内容について図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。(120分)						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（60％）、レポート（40％）						
履修上の注意	配布資料の内容を中心に授業を進めます。						
教科書	使用せず、資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習A						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	T2250A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報資源組織論で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題分類法(この科目では「日本十進分類法」を中心に行う)の実際について、その技術を修得する。						
授業の概要	主題分類法の考え方とその技術を修得するとともに、日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本十進分類法 第10版(NDC9)』の構造および適用法について、演習を通じて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	コ本十進分類法の体系を理解する。 日本十進分類法によって、基本的な分類記号が付与できる。 件名についての基礎的知識を習得する。						
授業計画	1. NDC9の概略と構成 本表、補助表、相関索引 2. 人文科学(1): 哲学・宗教 (1類) 3. 人文科学(2): 歴史 (2類) 4. 人文科学(3): 伝記・地理 (2類) 5. 補助表(1): (形式区分、地理区分) 6. 人文科学(4): 芸術 (7類) 7. 人文科学(4): 言語 (8類)・文学 (9類) 8. 補助表(2): (言語区分、言語共通区分、文学共通区分) 9. 社会科学(1): 社会科学 (3類) 10. 社会科学(2)産業 (6類) 11. 自然科学 (4類)・技術 (5類) 12. 総記 (0類) 13. 分類規程 14. 日本件名標目表 15. 主題目録法に関するまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	受講にあたっての事前学習としては、情報資源組織論で学習した分類法に関する内容を復習しておくこと。 演習にあたっては、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、事後学習を怠らぬで行うこと。(120分)						
授業方法	演習形式。はじめの数回を除いて、学習した内容について時間内および宿題の形で演習問題を課す。当該時間内またはその翌週に答合せと解説を行う形で演習を進める。						
評価基準と評価方法	定期試験(80%)と演習課題などの授業への取り組み(20%)により総合的に評価する。						
履修上の注意	受講にあたっては、この演習の概説科目である「情報資源組織論」を修得済みであること。 毎回の演習問題の準備、実施と授業への出席は必須です。 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、12回以上の出席がないと単位取得は難しいと思って受講すること。						
教科書	志保田務、高鷲忠美「情報資源組織法」第2版 第一法規、2016年 ISBN 978-4-474-05430-1 なお、この教科書は後期の情報資源組織演習Bにも引き続き使用できます。						
参考書	演習において適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習A						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	T2250A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報資源組織論で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題分類法(この科目では「日本十進分類法」を中心に行う)の実際について、その技術を修得する。						
授業の概要	主題分類法の考え方とその技術を修得するとともに、日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本十進分類法 第10版(NDC9)』の構造および適用法について、演習を通じて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	コ本十進分類法の体系を理解する。 日本十進分類法によって、基本的な分類記号が付与できる。 件名についての基礎的知識を習得する。						
授業計画	1. NDC9の概略と構成 本表、補助表、相関索引 2. 人文科学(1): 哲学・宗教 (1類) 3. 人文科学(2): 歴史(2類) 4. 人文科学(3): 伝記・地理 (2類) 5. 補助表(1): (形式区分、地理区分) 6. 人文科学(4): 芸術 (7類) 7. 人文科学(4): 言語 (8類)・文学 (9類) 8. 補助表(2): (言語区分、言語共通区分、文学共通区分) 9. 社会科学(1): 社会科学 (3類) 10. 社会科学(2)産業 (6類) 11. 自然科学 (4類)・技術 (5類) 12. 総記 (0類) 13. 分類規程 14. 日本件名標目表 15. 主題目録法に関するまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	受講にあたっての事前学習としては、情報資源組織論で学習した分類法に関する内容を復習しておくこと。 演習にあたっては、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、事後学習を怠らぬで行うこと。(120分)						
授業方法	演習形式。はじめの数回を除いて、学習した内容について時間内および宿題の形で演習問題を課す。当該時間内またはその翌週に答合せと解説を行う形で演習を進める。						
評価基準と評価方法	定期試験(80%)と演習課題などの授業への取り組み(20%)により総合的に評価する。						
履修上の注意	受講にあたっては、この演習の概説科目である「情報資源組織論」を修得済みであること。 毎回の演習問題の準備、実施と授業への出席は必須です。 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、12回以上の出席がないと単位取得は難しいと思って受講すること。						
教科書	志保田務、高鷺忠美「情報資源組織法」第2版 第一法規、2016年 ISBN 978-4-474-05430-1 なお、この教科書は後期の情報資源組織演習Bにも引き続き使用できます。						
参考書	演習において適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習B						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	T2250B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報資源組織論で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題目録法(この科目では「日本目録規則 1987年版改訂3版」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本目録規則 1987年版改訂3版(NCR1987rev.)』の構造および適用法について、演習を通じて理解することを目的とする。 そのため、資料組織概説で学習したことの復習から始めて、『日本目録規則 1987年版改訂3版(NCR1987rev.)』に基づき記述エリアごとに詳説しつつ、カード目録の作成演習を行う。後半は、国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を学び、『目録情報の基準』等に基づきコンピュータ目録の作成演習を行う。						
到達目標	『日本目録規則 1987年版改訂3版(NCR1987rev.)』で用いられる主要な用語が理解できる。 同目録規則に準拠した目録データを作成できるようになる。 国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を理解できる。						
授業計画	1. 『日本目録規則 1987年版改訂3版』の概略と構成 2. 書誌階層、記述の精粗、区切り記号法、記述に関する総則 3. タイトルと責任表示の記述演習 (1) タイトル 4. タイトルと責任表示の記述演習 (2) 責任表示 5. 版に関する事項の記述演習 6. 出版に関する事項の記述演習 7. 形態に関する事項の記述演習 8. 注記の記述演習 9. 標準番号、入手条件の記述演習 10. 継続資料の目録 11. JAPAN MARCのデータ構造 NACSIS CATのデータ構造 12. 目録演習 (1) 和図書単行レベル 13. 目録演習 (2) 和図書集合レベル 14. 書誌ユーティリティ 15. これからの目録、試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	受講にあたっての事前学習としては、情報資源組織論で学習した目録法に関する内容を復習しておくこと。 演習にあたっては、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、事後学習を怠らざること。(120分)						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験(90%)と授業時の演習課題への取り組み態度(10%)により総合的に評価する。						
履修上の注意	受講にあたっては、この演習の概説科目である「情報資源組織論」および「情報資源組織演習A」を履修済みであること。 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、12回以上の出席がないと単位取得は難しいと思って受講すること。						
教科書	志保田務、高鷲忠夫「情報資源組織法」第2版 第一法規 2016年 ISBN 978-4-474-05430-1						
参考書	演習において適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習B						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	T2250B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報資源組織論で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題目録法(この科目では「日本目録規則 1987年版改訂3版」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本目録規則 1987年版改訂3版(NCR1987rev.)』の構造および適用法について、演習を通じて理解することを目的とする。 そのため、資料組織概説で学習したことの復習から始めて、『日本目録規則 1987年版改訂3版(NCR1987rev.)』に基づき記述エリアごとに詳説しつつ、カード目録の作成演習を行う。後半は、国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を学び、『目録情報の基準』等に基づきコンピュータ目録の作成演習を行う。						
到達目標	『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』で用いられる主要な用語が理解できる。 同目録規則に準拠した目録データを作成できるようになる。 国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を理解できる。						
授業計画	『日本目録規則 1987年版改訂3版』の概略と構成 - 書誌階層、記述の精粗、区切り記号法、記述に関する総則 - タイトルと責任表示の記述演習 (1) タイトル - タイトルと責任表示の記述演習 (2) 責任表示 - 版に関する事項の記述演習 - 出版に関する事項の記述演習 - 形態に関する事項の記述演習 - 注記の記述演習 - 標準番号、入手条件の記述演習 - 継続資料の目録 - JAPAN MARCのデータ構造 NACSIS CATのデータ構造 - 目録演習 (1) 和図書単行レベル - 目録演習 (2) 和図書集合レベル - 書誌ユーティリティ - これからの目録、試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	受講にあたっての事前学習としては、情報資源組織論で学習した目録法に関する内容を復習しておくこと。 演習にあたっては、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、事後学習を怠らざること。(120分)						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験(90%)と授業時の演習課題への取り組み態度(10%)により総合的に評価する。						
履修上の注意	受講にあたっては、この演習の概説科目である「情報資源組織論」および「情報資源組織演習A」を履修済みであること。 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、12回以上の出席がないと単位取得は難しいと思って受講すること。						
教科書	志保田務、高鷲忠夫「情報資源組織法」第2版 第一法規 2016年 ISBN 978-4-474-05430-1						
参考書	演習において適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目							
科目名	情報資源組織論							
担当教員	中村 恵信						科目ナンバー	T21490
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館情報資源の組織化の理論（書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等）の理解							
授業の概要	情報資源は人やシステムによって組織化されることで、多くの利用者がアクセスできるようになる。従来の「資料」だけでなく、特定の形にとられない電子資料やネットワーク情報資源も含めて、「どのように情報を組織化するか」について、情報資源組織化の意味や世界的状況、目録・分類の基礎的技法について解説する。							
到達目標	(1) 情報資源の組織化の意義を理解し説明ができる。 (2) 情報資源を分析し、基本的な記述目録法および主題目録法について説明できる。 (3) 図書分類および図書目録を作成できる。							
授業計画	第1回 情報資源組織論とは 第2回 目録の役割 第3回 目録の種類 第4回 目録記入の構成 第5回 書誌コントロール 第6回 OPACの管理と運用 第7回 タイトルや著者からの検索 第8回 主題検索：件名目録、分類目録 第9回 書架分類（分類順配架） 第10回 目録・書誌の基準とその歴史（1）：目録規則の意義、近代目録規則の歴史 第11回 目録・書誌の基準とその歴史（2）：図書館目録に関する世界標準、20世紀後半の目録規則 第12回 ネットワーク情報資源とメタデータ（1）：デジタル情報資源の組織化 第13回 ネットワーク情報資源とメタデータ（2）：デジタル情報資源のネットワーク化とメタデータ 第14回 多様な情報資源組織 第15回 全体のまとめと期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。（120分） 授業後学習：授業中に説明した内容について図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。（120分）							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	期末試験（60％）、レポート（40％）							
履修上の注意	教科書の内容を中心に授業を進めます。							
教科書	『情報資源組織論：よりよい情報アクセスを支える技とシステム』第2版（講座 図書館情報学；10）志保田務 編著 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07651-2							
参考書	授業中に適宜指示します。							

科目区分	司書課程科目						
科目名	児童サービス論						
担当教員	中西 美季					科目ナンバー	T22450
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館児童サービス研究						
授業の概要	公共図書館における、乳幼児からヤングアダルトまでのサービスの現状と課題を概説する。さらに、絵本や児童文学、知識の本等の実物に幅広く触れながら、その特性をとらえた上で、図書館にできるサービスを考える。また、学校や地域との協力等についても解説する。						
到達目標	子どもを知り、資料を知り、子どもと資料の橋渡しをするノウハウを会得できる。司書資格取得の必修科目でもあるので、図書館現場に立っても困らないような知識と技術を学べる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・デモンストレーション・児童図書館とは 第2回 児童図書館の歴史と現状・発達と学習における読書の役割 第3回 子どもと子どもの本を知る1 絵本1 読み聞かせ 第4回 子どもと子どもの本を知る2 絵本2 乳幼児サービス 第5回 子どもと子どもの本を知る3 昔話1 昔話の文法 第6回 子どもと子どもの本を知る4 昔話2 ストーリーテリング 第7回 子どもと子どもの本を知る5 児童文学 第8回 子どもと子どもの本を知る6 各種資料 第9回 選書理論、書評、紹介文、 第10回 ブックトーク、ブックリスト、ディスプレイ、行事 第11回 カウンターワーク、フロアワーク、デスクワーク 第12回 運営、サービス計画と評価、学校や地域との連携・協力、アウトリーチ 第13回 建築、施設、設備、読書活動推進運営、図書館の自由 第14回 ヤングアダルトサービス、学校図書館の活動、調べ学習支援 第15回 児童サービスをめぐる諸問題とこれから、総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・近くの公共図書館で、児童サービスを観察、体験し、子どもの本に触れておくとう理解が深まります。 ・授業の中で配布する子どもの本及び参考文献リストから可能なかぎりの本を読んでください。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	数回のレポート（90％）、平常点（10％）						
履修上の注意	10回以上の出席を要します。						
教科書	使用せず						
参考書	『児童図書館サービス1』日本図書館協会児童青少年委員会編 日本図書館協会 ISBN:4-8204-1106-2						

科目区分	司書課程科目							
科目名	図書・図書館史							
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	T22540	
学期	後期 前半		曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	日本における図書の歴史、図書館の歴史を中心に学ぶ。							
授業の概要	図書館は古代から現代まで3000年以上の歴史をもつ。図書館は、その時代、その置かれたた社会から影響を受けながらも人類の知を継承する存在として、社会の発展と学術・文化の発達に寄与してきた。この授業では、記録メディアの変遷と日本における図書館の歴史に焦点をあてて解説する。そのため、古代の図書館施設や諸外国の図書館、アメリカの公立図書館成立史などは、必要最小限の説明に留める。							
到達目標	各種の記録メディアの発生についての知識を習得する。 図書の形態の変遷についての知識を習得する。 日本における図書館(文庫等の図書館類似施設)の歴史的な展開を代表的な例と全体的な流れのなかで把握する。 日本の近代図書館の歴史の概要を把握する。							
授業計画	1. 記録メディアの歴史、図書館（的）施設の発生 2. 日本における図書の歴史 -江戸末期まで 3. 日本の図書館史 中世から近世の図書館(図書館類似施設) 4. 日本の図書館史 幕末から明治へ 5. 日本の図書館史 明治、大正期の図書館 6. 戦前期の日本の公共図書館 7. 戦後日本の公共図書館史 8. 諸外国の図書館史							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の進度は速い。初回を除いて教科書を事前学習として読んだ上で出席すること。 授業前学習として、教科書の予定の章を読むこと（60分） 事後学習として、毎回の学習内容を配布プリントに沿って、まとめること（60分）							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	課題レポート（80％）と授業中に実施する小テスト（20％）							
履修上の注意	授業回数が少なく、進度が速いため、事前学習と出席を心がけること。							
教科書	小黒浩司編著『図書・図書館史』（JLA図書館情報学テキストシリーズ Ⅲ期-11）日本図書館協会 2013年刊 ISBN 978-4-8204-1218-2							
参考書	授業中に適宜指示します。							

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館概論						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	T21410
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ふだん利用している図書館(公立図書館や大学図書館など)は“どのようにして生まれたのか”をスタート地点として、図書館とはどのようなものか、図書館の機能や現代社会における役割、意義について学ぶ。						
授業の概要	図書館というシステムをその構成要素、機能、社会的意義、価値等から検討することを通じて図書館の基礎的なことについて解説する。その上で、公立図書館の成立・展開といった歴史的側面と館種別図書館の概要と現状といった水平的側面から図書館について解説する。そのようなことを踏まえて、図書館で働く図書館職員、広い意味での図書館ネットワークについて説明するとともに、これからの図書館の変わるべき点、変わらざる点を考える手がかりとなるように講義を行う。 については、講義内容に関連して受講生の図書館体験や意見などの発言を求める。						
到達目標	1 図書館とはどのようなものであり、どのような社会的役割を果たしているのかを理解する。 2 現代の図書館がどのようにして、生まれ、展開、発展してきたかを理解する。 3 館種別に(公立図書館、大学図書館、、、など)図書館をみていくことで、その利用者、ニーズ、動向を大まかに理解する。						
授業計画	1 オリエンテーションー図書館とは何か、司書課程で学ぶこと、図書館の現状と動向 2 図書館の構成要素、図書館の機能 3 図書館の業務モデル 4 図書館の社会的意義 5 記録、文化の伝承と図書館ー図書館の始原と世界の図書館 6 公立図書館の成立と展開ーイギリス、アメリカに見る 7 わが国における公立図書館の成立と発展 8 図書館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(1) 公立図書館 9 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(2) 国立国会図書館 10 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(3) 大学図書館 11 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(4) 学校図書館 12 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(5) 専門図書館 13 図書館職員ーその資質、資格制度、役割 14 図書館関連団体、図書館学術団体と図書館の類縁機関 15 総まとめー図書館を取り巻く課題と展望 と試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	司書課程で学習する内容の基礎となる科目ため、事前学習より、事後学習(復習)を心がけること。 授業前学習として、教科書の予定の章を読むこと(60分) 事後学習として、毎回の学習内容を配布プリントに沿って、まとめること(180分)						
授業方法	講義形式、ただし随時みなさんの図書館についての印象や意見を口頭なり、ミニレポートとして求めます。						
評価基準と評価方法	授業への参画態度とミニレポート(20点)、定期試験(80点)によって評価します。						
履修上の注意	司書養成課程を受講する学生は、この科目から履修を始めることが望ましい。(他の司書養成課程の概論科目を同時に履修しはじめることは可) 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、できるだけ欠席しないようにすること。						
教科書	二村健著『図書館の基礎と展望』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 1) 学文社、2011年 ISBN 9784762021916						
参考書	塩見昇『図書館概論 四訂版』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ-1) 日本図書館協会、2015年 山本順一『新しい時代の図書館情報学』補訂版 有斐閣、2016年 その他は授業中に適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目							
科目名	図書館基礎特論							
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	T22510	
学期	後期 後半		曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	司書養成課程の基礎的科目で学習する内容のなかから、基本的理念に関わるテーマを取り上げて論じる。図書館の自由をめぐる問題を扱う。							
授業の概要	「図書館の自由に関する宣言」と図書館の自由に関わる具体的な事案について、図書館の資料収集の自由、資料提供の自由、利用者のプライバシー保護、検閲の問題について検討する。 過去の代表的事案について講述し、あわせて近年の事案なども紹介して受講者で考えることにしたい。							
到達目標	なぜ「図書館の自由」が大切なのか、「図書館の自由宣言」で述べられている項目に関して、過去の具体的な事案を検討することを通じて、実際に事態に直面した際に適切な判断が下せる理解力を養うことを目標とする。							
授業計画	1. 知る権利、知的自由と図書館 2. 「図書館の自由に関する宣言」その採択、内容 3. 図書館の資料収集に関する事案 4. 図書館の資料提供に関する事案 (1) わいせつ出版物をめぐる 5. 図書館の資料提供に関する事案 (2) プライバシー侵害や人権侵害に関わる資料をめぐる 6. 利用者の秘密を守ることにに関する事案 7. 図書館はすべての検閲に反対することに関する事案 まとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	「図書館概論」で学習した内容を自身で復習、確認しておくこと。 授業前学習として、取り扱う事案の教材プリントを読むこと（60分） 事後学習として、毎回の学習内容を配布プリントに沿って、まとめること（60分） 取り扱う事案については、前の週に教材を配布するので一読して、各自の意見、感想を持ったうえ授業に出席すること。							
授業方法	図書館の自由についての過去の事案を採り上げて、図書館の対応、報道、判決文、日本図書館協会図書館の自由委員会の声明等の資料を読み解きながら、経緯の理解、問題点の把握ができる形で授業を行う。							
評価基準と評価方法	授業での発言、発表等の授業への参画度(20%)と課題レポート(80%)にて評価する。							
履修上の注意	「図書館概論」を修得済みであること、できれば「図書館情報資源概論」、「図書館サービス概論」も修得済みで受講することが望ましい。 とりあげる事例は具体的であるが、その根底にある考え方等、扱う内容は概念的である。しっかりとした学習意欲をもって学習をしなければ、単位の習得は困難であることを自覚した上で履修すること。							
教科書	特に使用しない。プリント教材を配布する。							
参考書	適宜、授業の中で指示します。							

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館サービス概論						
担当教員	長谷川 雄彦					科目ナンバー	T21440
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館サービスは、図書館の機能を具体化し、実践する活動であり、利用者を中心に考えて行われなければならない。このような図書館サービスについて、その意義、方法、特徴について学ぶとともにその具体的なサービスについて理解する。						
授業の概要	図書館サービスの理念と意義を概説し、資料提供サービス、情報提供サービス、利用対象者別サービスに大別してその意義や技法について解説する。あわせて、できるだけ各種サービスについて具体的な実践例を提示して、図書館サービスの実際を理解できるようにする。						
到達目標	図書館が提供している様々なサービスについて、その名称と具体的な活動内容を把握する。またそれぞれのサービスがどのような考え方に基づいて準備、実践されるのかを理解する。そして、図書館サービスというものは図書館員を介して行われるものであるということ意識する。						
授業計画	第1回 図書館サービスの考え方（1）：図書館サービスの意義 第2回 図書館サービスの考え方（2）：図書館サービスの基本的な考え方 第3回 図書館サービスの構造：種類と特徴 第4回 戦後日本の図書館サービスの変遷（1）：1945年－1970年代 第5回 戦後日本の図書館サービスの変遷（2）：1980年代－現在 第6回 公共図書館における資料提供システムと図書館協力 第7回 資料提供サービスと情報提供サービスの基本 第8回 資料提供サービスの実際（1）：閲覧・貸出 第9回 資料提供サービスの実際（2）：読書相談サービス・予約・リクエスト・複写サービス ほか 第10回 情報提供サービスの実際（1）：レファレンスサービス・図書館利用教育 第11回 情報提供サービスの実際（2）：情報検索サービス・課題解決支援サービス 第12回 情報提供サービスの実際（3）：集会活動・広報活動 第13回 利用対象者別の図書館サービス（1）：年齢別サービス 第14回 利用対象者別の図書館サービス（2）：図書館利用に障害のある人へのサービス、団体へのサービス 第15回 図書館サービスと著作権 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で学ぶだけでなく、居住地や近隣の自治体の公共図書館を見に行くことを心がけ、それぞれの図書館での実際のサービスも見てほしい。（30分） 毎回復習テストを行うので、しっかり復習をしておくこと。（90分）						
授業方法	講義形式。適宜、具体的なサービス事例を紹介しながら進める。 毎回、授業の開始時に前回授業の復習テストを行う。						
評価基準と評価方法	授業の平常点（毎授業の復習テスト、課題・レポートなど）40%、および期末試験60% で評価する						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席を以て評価の対象としますが、できるだけ欠席しないようにすること。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	なし（レジュメにより授業を行います）						
参考書	参考書は授業時に適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目							
科目名	図書館サービス特論							
担当教員	中村 恵信					科目ナンバ－	T22520	
学期	後期 前半		曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館サービスの実際の理解							
授業の概要	図書館サービス概論の内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館サービスに関する領域の課題を選択し、講義を行う。「図書館サービス概論」で概説的に扱った図書館サービスについて、「図書館サービス特論」では焦点化した授業展開により、更に理解を深める。							
到達目標	(1) 図書館サービス概論の実際の理解できる。 (2) 資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者、高齢者、多文化サービスを理解し実際に行うことができる。							
授業計画	第1回 図書館サービスの変遷 第2回 直接サービス（パブリックサービス）の種類 第3回 資料提供と図書館の自由、図書館員の倫理 第4回 図書館サービス各種 第5回 利用者別サービス各種 第6回 アウトリーチ・多文化サービス・高齢者サービス 第7回 障害者サービス 第8回 展望・まとめと期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。(60分) 授業後学習：授業中に説明した内容等を図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。(60分)							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	期末試験（60％）、レポート（40％）							
履修上の注意	授業計画の内容の配布資料を中心に授業を進めていきます。							
教科書	なし							
参考書	授業中に適宜指示します。							

科目区分	司書課程科目							
科目名	図書館施設論							
担当教員	中村 恵信					科目ナンバー	T22550	
学期	後期 後半		曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館施設の実際と理解							
授業の概要	利用者のための地域計画としての図書館ネットワーク案及び建築計画としての図書館設置計画案を作成し、ベンダーのカタログを利用し実際の館内のサイン計画及び図書館家具等を考えて、カウンター、閲覧席、閲覧椅子、AVルーム等の計画が行えるようにする。							
到達目標	(1) 必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、図書館建築を理解し、説明できる。 (2) 場としての図書館施設を理解し、説明できる。 (3) 図書館施設及び図書館用品についての構成要素を理解し、図書館計画・地域計画・建築計画できる。							
授業計画	第1回 場としての図書館とはno 第2回 図書館システムと地域計画・建築計画・規模計画 第3回 図書館建築の構成要素 第4回 図書館の内装計画・環境計画 第5回 複合・併設館について 第6回 図書館建築の事例・図面と図学の基本 第7回 パーチャル図書館の設計と表現・評価 第8回 展望及びまとめと期末試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業中計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。(60分) 授業後学習：授業中に説明した内容等を図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。(60分)							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	期末試験（60％）、レポート（40％）							
履修上の注意	授業計画の内容を教科書を中心に授業を進めていきます。							
教科書	『図書館施設特論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望；9）福本徹著 学文社 ISBN978-4-7620-2199-2							
参考書	授業中に適宜指示します。							

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館情報技術論						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバー	T21430
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における利用者サービスを行うための情報技術の実際						
授業の概要	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、ネットワーク及びコンピュータ等の基礎、オープンシステム、図書館業務システム、電子ブック、電子ジャーナル、データベース、リンクリゾルバ、検索エンジン、ホームページによる情報発信等について解説し、必要に応じて演習を行う。						
到達目標	(1) インターネットによる情報環境の急激な変更に対応できる。 (2) 電子ブック、電子ジャーナルを理解し、情報サービスができる。 (3) 図書館ネットワークを学び、図書館システムを構築でき、図書館サービスができる。 (4) 情報発信について学び、電子図書館の管理・運営・広報ができる。						
授業計画	第1回 コンピュータとネットワークの基礎 第2回 館内LANの構成、サブネットワーク、プロトコル 第3回 コンピュータシステムの管理 第4回 データベースの仕組み 第5回 図書館業務システムの仕組み 第6回 館内ネットワークの仕様、仕様書 第7回 図書館における情報技術活用の現状 第8回 電子資料の管理技術 第9回 電子図書館とデジタルアーカイブ 第10回 最新の情報技術と図書館 第11回 情報技術と社会 第12回 インターネットと図書館 第13回 サーチエンジンの仕組み 第14回 Web2.0とLibrary2.0 第15回 展望及びまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業中に配布するプリントの該当する箇所を読んでください。（120分） 授業後学習：授業中に説明した情報技術を図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。（120分）						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	期末試験（60％）、レポート（40％）						
履修上の注意	授業計画の内容を中心に授業を進めていきます。						
教科書	『図書館情報技術論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望；2）齋藤ひとみ・二村 健編著、学文社 ISBN978-4-7620-2192-3						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目							
科目名	図書館情報資源概論							
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	T21480	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館を構成する要素のひとつとしての図書館情報資源(図書館資料)について、その類型ごとに基礎的知識を習得する。また、図書館のコレクションの形成、管理、評価について、基本的な考え方や手法の基礎的知識を習得する。							
授業の概要	図書館情報資源(図書館資料)について、その類型ごとに現物資料や副教材(プリント配布)により、その特性、歴史、流通について概説する。また、図書館のコレクションの形成、管理について、選択、収集、保存についての基本的な考え方、具体的なツール、手法について説明する。							
到達目標	図書館情報資源(図書館資料)について、その類型ごとの名称、定義、特徴を理解する。 図書館情報資源(図書館資料)がどのような流通のしくみを持っているかを他の商品との違いと比較して説明できるようにする。 図書館における図書館情報資源(図書館資料)の収集、受入、保存がどのように行われているのかを理解する。							
授業計画	1. この授業のガイダンス、図書館情報資源とは 2. 図書館情報資源の類型 ―パッケージ型情報資源、ネットワーク情報資源をめぐって 3. 図書 ―形態、版型、造本 4. 雑誌、新聞 5. 小冊子、地図、政府刊行物、灰色文献 6. 録音資料、映像資料 7. 電子資料、ネットワーク情報資源 8. 一次資料と二次資料 9. 出版流通のしくみ 10. コレクションの形成(1) 資料の収集・選択 選択論 選書ツール 11. コレクションの形成(2) 蔵書の評価、蔵書の更新 12. 人文・社会科学、自然科学分野の情報資源とその特徴 13. 資料の受入、登録、配列 14. 資料の管理、蔵書点検、除籍 15. 図書館情報資源(図書館資料)の変化と図書館 まとめ							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	司書課程の基礎的科目のひとつひとつであるため、事前学習より、事後学習(復習)を心がけること。 授業前学習として、教科書の予定の章、項目を読むこと(60分) 事後学習として、毎回の学習内容を配布プリントに沿ってまとめること、また、図書館でできるだけ現物に触れたり、目にしたりするように心がけること(180分)							
授業方法	講義形式で進める。前半の図書館情報資源(図書館資料)についての話題では、現物を提示または回覧するとともに簡単な作業も行う。							
評価基準と評価方法	期末試験(100%)によって評価します。							
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、できるだけ欠席しないように心がけること。							
教科書	伊藤民雄著『図書館情報資源概論』(ライブラリー図書館情報学 8) 学文社 2012年刊 ISBN 9784762023040							
参考書	馬場俊明『図書館情報資源概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ Ⅲ期 7) 日本図書館協会 2012年刊 宮沢厚雄『図書館情報資源概論』全訂第3版 理想社 2015年刊							

科目区分	司書課程科目							
科目名	図書館情報資源特論							
担当教員	中村 恵信					科目ナンバー	T22530	
学期	前期 前半		曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館資料論、専門資料論、資料特論の統合							
授業の概要	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する課題を選択し解説する。従来の図書館資料論、専門資料論、資料特論の統合化をねらう。							
到達目標	(1) 印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源を情報・資料・メディアととらえて図書館情報資源について理解し説明できる。 (2) 報資源の生産（出版）と流通の課題を学び、図書館コレクションとして形成及び提供する理論（資料の選択・収集・評価）、方法の課題についても理解し説明できる。 (3) 主題分野における情報資源の特性についても理解し説明できる。。 (4) 特に、今後のことを考えて電子、電子ブックについては現状・将来・提供方法を理解し説明できる。							
授業計画	第1回 学術・専門情報の意義と種類 第2回 学術・専門情報と二次情報 第3回 学術・専門情報の生産、流通、利用 第4回 郷土・行政資料 第5回 視聴覚メディアと図書館 第6回 電子ブック、電子ジャーナルの現状・将来・課題 第7回 情報メディアを取り巻く制度と政策 第8回 まとめと試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。（60分） 授業後学習：授業中に説明した内容について図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。（60分）							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	試験（60％）、レポート（40％）							
履修上の注意	毎回、講義資料を配布する。							
教科書	なし							
参考書	授業中に適宜指示します。							

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館実習						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	T24570
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館の現場において、司書養成課程で学習したことを活用しつつ、実際の図書館業務を通して図書館について理解を深める。						
授業の概要	事前研修として、実習にあたって知っておくべき用語の復習、実習先でのマナー・心得、実習先図書館に関する調査を行う。事前に実習先図書館についての簡単な予備調査報告を作成する。 実習先図書館での実習(原則5日間 実習先によって異なる場合がある) 事後研修として、実習での体験報告および最終的に実習報告書をまとめる。 最終的に実習報告書に基づくミニ発表会を実施し、実習で得たことを実習参加者で共有できるようにしたい。						
到達目標	事前の予備調査に基づく仮説と実際の比較・検討、司書養成課程で学習した内容に関して現場でどう活用できたかなどの観点を踏まえ、実習で体得したことを実習報告書としてまとめる。						
授業計画	事前研修 (4回程度) 1. 図書館実習のガイダンス(実習の手続き、実習の概要) 実習にあたって知っておくべき用語の復習 1 図書館組織関係 2. 実習にあたって知っておくべき用語の復習 2 図書館サービス関係 実習先図書館に関する調査方法の説明 3. 実習先でのマナー・心得 4. 実習先図書館に関する調査のまとめ 実習 5-13 実習先図書館での現地実習 (実習先によって異なる場合があるが、4日ないし5日のプログラムを想定しています) 事後研修 (3回程度) 14. 実習報告会と実習メモのまとめ 15. 実習報告書の作成 16. 実習報告書のまとめと発表会 事前研修、事後研修とも予定回数には制限されず、必要に応じて適宜指導をします。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	司書養成課程で習得済みの内容について復習しておくこと。 実習期間のみならず、事前研修課題や実習報告書の作成に授業外で多くの時間を要するので、あらかじめ心積もりしておくこと。(事前研修課題3件、実習先図書館の事前訪問、実習報告書作成等)						
授業方法	講義と演習、実習						
評価基準と評価方法	事前研修の提出物(20%)、実習報告書(80%)によって評価します。 実習に参加するだけでは単位認定されません(実習報告書の作成、提出が作成が必須)。						
履修上の注意	事前の予備登録説明を受け、「履修ガイド」の履修資格制限を満たしていないと履修できません。 また、実習にあたっては実習費が必要となります。 実習は9月の中旬から10月初旬頃が目安であるので、その前後に予定を入れないこと。 この科目は「集中」であるが、前期の後半から夏季休業中の木曜5限に事前研修を実施し、後期の前半の木曜5限に事後研修する。なお、どうしても木曜5限が確保できない学生については相談に応じます。						
教科書	使用しない						
参考書	適宜、指示する						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館総合演習						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	T23560
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	公立図書館に関するテーマについて調査研究レポートを作成することを通じて、調査法、研究法の基礎を習得する。						
授業の概要	受講生の設定したテーマに応じて、先行研究の調査、レビューの作成、調査手法、分析といった過程を講義をまじえつつ、演習を行う。 そのため、取り扱うテーマに応じて授業計画に示した内容に濃淡が生じる。また、該当する調査、研究法が適用されないような場合は、サンプルデータなどを用いて講義形式で説明する。						
到達目標	受講生各自の問題意識に基づくテーマについて調査し、調査研究レポートを作成する。						
授業計画	1. 本演習の進め方、各自のテーマ設定について 2. 先行研究の調査、先行研究文献の入手 3. 先行研究の文献リストの作成 参考文献記述法 (SIST02、学問領域での記述法の相違) 4. 先行研究の調査のまとめ 5. 主要な先行研究の概要把握 6. 研究レビューの作成 7. 文献研究とフィールドワーク (現地視察、観察調査、質問紙調査) 8. 調査手法の検討 9. 具体的な調査方法 10. データの分析、統計解析ソフトの利用 11. データの記述 12. 統計的検定 13. 調査レポートのまとめ 14. 調査レポートの発表と質疑応答 15. 講評とアドバイス						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業時間内で作業を行うことは困難であるため、各自が設定したテーマについて継続的に、2時間程度の調査や分析のための時間が必要となります。 事前学習、事後学習という区別はなく、120分程度の準備、調査、まとめの時間を持つこと						
授業方法	演習と講義						
評価基準と評価方法	各自の調査、研究課題の口頭での発表などの授業への参画度 (20%) と本演習のまとめとして提出される調査研究レポート (80%) により評価する。						
履修上の注意	4年次に「図書館実習」を受講する予定の者は、この「図書館総合演習」を履修することが望ましい。(必須ではないが、可能な限り履修を心がけること) 地元の実習候補先の図書館調査などを行う。 調査研究レポートを作成し終えないと評価の対象とならないので、履修登録の時点から各自、調査研究のテーマを考えておくこと。(本演習は論文の作成が目的ではないので、オリジナリティのある成果を求めるものではありません。調査手法や引用文献記述法など論文・レポート作成のベースになるものを習得することが狙いです)						
教科書	使用しない。受講生各自のテーマに応じて、読むべき資料を指示したり、プリントを配布する。						
参考書	適宜、取り上げた事例、調査研究に合わせて指示する。						